

2019年度 戦略的創造研究推進事業（社会技術研究開発）  
SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム  
Solution-Driven Co-creative R&D Program for SDGs (SOLVE for SDGs)

## 「SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム」 の提案にむけて

### プログラム総括 関 正雄

明治大学 経営学部 特任教授  
損害保険ジャパン日本興亜株式会社 CSR室 シニア アドバイザー

## 持続可能な開発目標(SDGs)

2016年～2030年までの間に達成すべき17の目標(ゴール)と  
169の(具体的)ターゲット

「トランスフォーメーション (大変革)」 “Transformatoion”  
「誰ひとり置き去りにしない」 “Leave No one Behind; LNOB”



# 今、世界で起きていること

## ・ 迫られる「トランスフォーメーション」

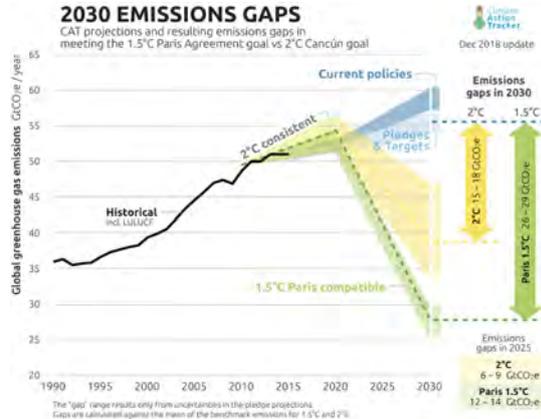
イノベーション（変革）を越えた、脱炭素社会への移行

### 気候変動・環境

スウェーデン議会前の  
グレタ・トゥーンベリさん



出典：Wikipediaより



### 自然災害・ 防災

“社会を  
レジリエントに”

気候科学に基づいて、政策、ルール、企業行動、ライフスタイル等々、システムチックな変化を起こすことが求められている。  
気候変動への適応にも、より一層力を入れる必要がある。

# 今、世界で起きていること

## ・ 「誰ひとり置き去りにしない」

包摂的な経済成長、人間の尊厳を守る社会を実現

### 貧困・格差拡大

「26人と38億人」、「80%と1%」

出典：OXFAM “Public good or private wealth?” 2019.01  
<https://www.oxfam.org/en/research/public-good-or-private-wealth>



出所：ウォーターエイドジャパンのホームページ <https://www.wateraid.org/jp/>

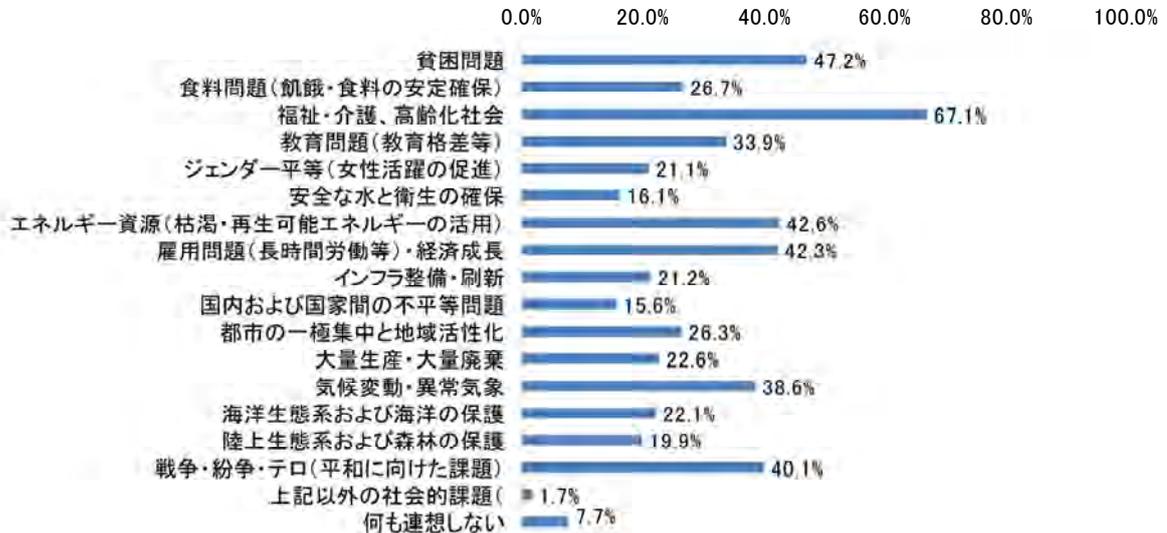
### 脆弱な人々 への着目

“ダウンサイド  
リスク”

貧困には様々な側面があり、他の目標との関連性が重要。  
気候変動の影響を最も受けるのは、脆弱な貧困層であることに留意。

# “課題先進国日本”

SDGs17目標の中で、国内の「社会的課題」と聞いて連想するもの（一般市民向けアンケート調査）



出典：「社会的課題・SDGsに関する意識調査」 損害保険ジャパン日本興亜株式会社（2018年3月）

## 私たちがなすべきこと

共通言語となったSDGsの視点で課題をとらえなおし、長期的な視野に立って、政府、学界、産業界、市民社会、消費者、労働界、メディアなどが、知恵と行動力を結集し、グローバルな課題、ローカルな課題を解決していく。

- ・ STI（科学技術イノベーション）を有効な手立てとして活用する
- ・ 科学技術を人と社会の未来のために用いて、課題解決力とする
- ・ 革新的なデジタル技術AI、IoT、ビッグデータ、5G、ロボティクス、ドローン、ブロックチェーンなどの活用も



# 本プログラムが目指すもの(1)

## プログラムの目標

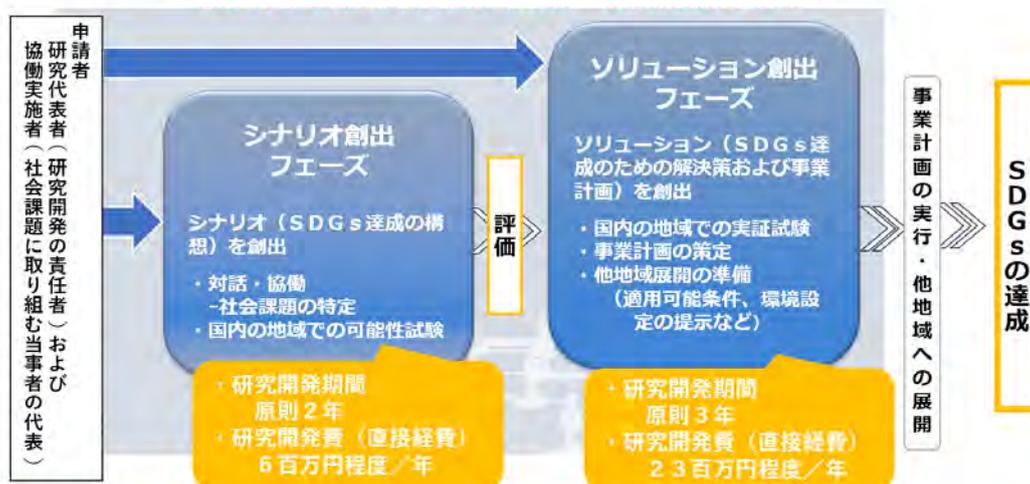
STIを活用して**特定の地域における社会課題を解決し**、その成果を**事業計画**にまでまとめ上げ、国内外の**他地域に展開可能なソリューション**として**提示**すること。

- ・ 外部環境や科学的知見を起点とする、“**Outside-in**”
- ・ 目標から逆算してなすべき事を考える、“**Backcasting**”
- ・ 技術ドリブンではなく技術シーズを基盤とした、“**ソリューション・ドリブン**”
- ・ SDGs各目標間の相互関連や**トレードオフ、シナジー**に留意

# 本プログラムが目指すもの(2)

- ・ **マルチステークホルダー共創によるプログラム推進**
- ・ **研究者と社会課題に取り組む当事者が一緒に研究開発を実施**

SDGsの達成に向けて目指すべき姿（ビジョン）を描き、国内の地域における社会課題を特定し、その解決策を実証する。さらに、実証された解決策を他地域に展開するための事業計画を策定する。



## 本プログラムが目指すもの(3)

- プログラム総括・プログラム総括補佐・プログラムアドバイザーらによる機動的なハンズオン・マネジメントを行います。
  - プログラム総括 **関 正雄**
  - プログラム総括補佐 **川北 秀人**  
IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所] 代表  
**奈良 由美子**  
放送大学 教養学部 教授
  - プログラムアドバイザー  
**研究者、産業界、市民・消費者団体、NPO等に所属する  
有識者により構成**
- 社会的インパクトがあり、意味のある変化を起こすためのさまざまなシナリオ創出、ソリューションを創出することを支援します。

- みなさまのご応募お待ちしております。

**提案〆切：2019年7月29日 正午**

**問い合わせ先：solveboshu@jst.go.jp**

**SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム 事務局**  
(科学技術振興機構 社会技術研究開発センター／「科学と社会」推進部)